

高梁・新見地域 認知症疾患医療連携協議会

新見部会 第1回研修会 記録

日時：令和2年1月15日 14時～16時

場所：まなび広場新見 小ホール

参加者：60名(うち新見地域外より23名参加)

研修のテーマ：たいせつなもの ～本人の声 編～

研修内容：厚生労働省が作成した「認知症の人の意思決定支援ガイドライン」についての研修を、下記のように行った。その中で、認知症支援における基本としての本人の意思確認とその支援の重要性を参加者で確認した。

第1部：ガイドラインについての講義

県認知症疾患センター(たいよりの丘ホスピタル)の児玉センター長が担当

第2部：意思決定支援に関する模擬事例を用いたグループワーク

新見市哲西町診療所の土井医師(認知症サポート医)が担当

※第2部での各グループの記録シートの一部を掲載します。



7月-702

① ケアマネのいい人だと感じた  
本人には家族に苦痛を連れている

② 上記のケアマネは  
「本人に自分自身は又次、と言ふ人は  
おれど多量に伝えているが... 説明難しい」

③ ケアマネの気持ちも分かる  
気持ちも尊重してあげられれば...

・本人もまた色々悩んでいるのを  
気づかせている

・ケアマネと一緒に説明してくれていた  
・趣味がある ・家族の協力がある所良かった

(2) ケアマネの行動を評価してあげられれば...

④ 本人とケアマネで話せれば 素直な気持ちがある  
引退させるか否かしない

・娘さんにも痴呆の知識を伝えてあげたら  
・自転車は危険なためセーパークを付けてみる?

57グループ

GW1

(1) 本人 家族の人間関係△? コミュニケーションとれていない

- 本人の思いを聞く場が必要
- 娘の思いを押しつけている (本人の気持ちも知らない) 一方的
- 薬を飲むのはわかる
- 本人は 娘がなぜ心配しているのかわからない

(2) ケアマネが本人の思いを聞く場を設ける (個別に)

- ケアマネが本人と娘の仲介役
- 娘が本人の思いを理解するために、本人と一緒に行動している (本人の気持ち、状況を確認できる)

270-7

(1) IHは 便宜が良い? 通称通知

人が来る事か嫌

・細心の注意を情報量が多い

・薬の服薬状況、飲薬の状況の把握 (量減?)  
(特に270-7に付、本人にどの程度把握している?)

・家賃がどうなるのか?

⑤ 生活圏の出来玉 所をアセスメントが必要あり。(住環境含む)

・鬼子の自覚は? 悪い。人数 (高年齢者?)

・他人が入ってくる可能性がある (経験者、説明、住環境含む) かなり多い

(2) アセスメントをいかにする。(薬、生活、住環境含む)

- 家族や近所の協力者を把握する。(どこでやる?)
- 何の保障やサービスの情報提供 (不備は?)
- 家賃が、その水準を見ながら (生活している)

(57グループ)

GW2

本人が理解できるように、やり方と話す  
規範的に分かるように書く (優先順位がわかる)

・話し環境の整備 (部屋の広さ、座る位置、距離)

- 本人は同居のことは覚えているのでは...?
- 同居したくないのでは?
- 本人宅の環境を確認しておく (危険性等)
- 事前に本人、家族の同居に対する思いを聞いた上で退院カンファレンスをする
- 施設体験をしてみる
- 第三者が本人宅に入ることに嫌
- 近所の方、親せきの協力を得る
- 忘れがちであることを本人が理解できるように
- 薬の一包化、信頼関係を構築した上で、本人の思いを聞く

高梁・新見地域 認知症疾患医療連携協議会

高梁部会 第1回研修会 記録

日時：令和2年2月6日 13:30～15:30

場所：高梁市総合文化会館2階 レクチャールーム

参加者：47名(うち高梁地域以外8名参加)

研修テーマ：認知症あるある事例を語ろう

研修内容：高梁市介護保険課より提供された「サービス利用に拒絶的な」架空事例をもとに、グループワークを行った。そこでは各グループで、サービスや介護に拒絶的な事例の経験やその対処について語ったうえで、認知症支援業務を続けていく上での各々の「元気の源」についても話し合った。全体の進行は県認知症疾患医療センター(たいようの丘ホスピタル)の河原精神保健福祉士が行い、総括は県介護支援専門員協会高梁支部の草野支部長が担当した。

※各グループの記録シートの一部を掲載します。



